

2023年3月期 第3四半期決算説明会

2023年1月30日
株式会社オリエンタルランド

I. 決算概要

II. 通期業績予想の上方修正

III. 株式給付信託の導入と従業員の賃金改定について

I. 決算概要

1. 第3四半期累計実績(前年同期比較)

(億円)

連結損益計算書	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,903	3,510	1,607	84.4%
テーマパーク事業	1,490	2,870	1,380	92.6%
ホテル事業	343	547	204	59.5%
その他の事業	69	91	22	32.2%
営業利益	△ 16	856	872	-
テーマパーク事業	△ 51	719	770	-
ホテル事業	43	133	90	211.1%
その他の事業	△ 10	1	11	-
経常利益	△ 0	863	864	-
税金等調整前四半期純利益	△ 0	863	864	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 11	600	612	-

入園者数とゲスト1人当たり売上高の増加などから売上高が増加し、増収増益

4

1. 第3四半期累計実績 (前年同期比較)

第3四半期累計の実績は、ご覧の通りです。

前年同期と比較して、入園者数とゲスト1人当たり売上高の増などから売上高が増加し、増収増益となりました。

セグメント別の実績と増減要因をご説明します。

1. 第3四半期累計実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業①	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,490	2,870 ^{*1}	1,380	92.6%

^{*1} 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

	前年同期比較	主な増減要因
入園者数	上回った	制限緩和による増
ゲスト1人当たり売上高	上回った	
アトラクション・ショー収入 ^{*2}	上回った	・ディズニー・プレミアアクセスの増 ・株主用パスポートの構成比の減 ・変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増
商品販売収入	若干上回った	・ダッフィー＆フレンズ関連商品の増
飲食販売収入	下回った	・入園者数増加に伴うテーブルサービスの利用構成比の減

^{*2} 2022年3月期の実績はチケット収入、2023年3月期の実績はアトラクション・ショー収入です。詳細はAppendix P18をご参照ください。

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により売上高が増加

5

1. 第3四半期累計実績（前年同期比較） – 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、1,380億円増の2,870億円となりました。

入園者数につきまして、前年同期は千葉県に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されていたことなどから厳しい入園者数制限が続きました。

今期は「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の緩和に伴い、段階的に入園者数の上限を引き上げて両パークを運営したことから、前年同期を上回りました。

ゲスト1人当たり売上高につきまして、アトラクション・ショー収入は、ディズニー・プレミアアクセスの導入や、株主用パスポートの利用の減に加え、変動価格制による高価格帯チケット構成比の増により、上回りました。

商品販売収入は、リーナ・ベル関連商品の発売などにより、若干上回りました。

飲食販売収入は、入園者数増加に伴うテーブルサービスの利用比率の減などにより、下回りました。

1. 第3四半期累計実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②

	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,490	2,870 ^{*1}	1,380	92.6%
営業利益	△ 51	719	770	-

^{*1} 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 74
商品・飲食原価率の減	30	エネルギー費の増	△ 20
人件費の増	△ 117	販売促進費の増	△ 16
前期と当期の雇用調整助成金 ^{*2} の受給差額	△ 66	メンテナンス費の増	△ 13
準社員人件費の増	△ 30	事業税の増	△ 9
正社員人件費の増	△ 14	その他	△ 15
その他	△ 6	減価償却費の増	△ 9

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。
^{*2} 雇用調整助成金の受給金額を営業費用から控除しています。

費用は増加したものの、売上高の増加などにより、増益

6

1. 第3四半期累計実績(前年同期比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
費用は増加したものの、売上高の増により、増加しました。

商品・飲食原価率は、
主に飲食原価率が、売上高の増加により製造人件費率が低下したことなどから減少したため、減少しました。


人件費は、
前期と当期の雇用調整助成金の受給差額に加え、
準社員人件費は労働時間の増などにより増加、
正社員人件費はテーマパークオペレーション社員数や労働時間が増加したことなどにより、増加しました。

諸経費は、
燃料費高騰によるエネルギー費の増加や販売促進費の増加に加え、
前期にメンテナンス計画を精査し、後ろ倒ししたことによるメンテナンス費の増などにより、増加しました。

減価償却費は、
前期は休止していた施設の減価償却費を営業外費用に振り替えていたことなどにより、増加しました。

1. 第3四半期累計実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

ホテル事業 	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	343	547	204	59.5%
ディズニーホテル	315	501	185	58.7%
その他ホテル	27	46	19	69.2%
営業利益	43	133	90	211.1%

売上高の増

- ・ 当期、販売客室数の制限を緩和したことによる宿泊収入の増
- ・ 東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業による増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増 (△ 19億円) – 労働時間の増、東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業
- ・ 諸経費の増
- ・ 減価償却費の増 (△ 9億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

当期は販売客室数の制限を緩和したことなどにより増収増益

その他の事業 	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	69	91	22	32.2%
営業利益	△ 10	1	11	-

売上高の増

- ・ 乗降客数の増によるモルレル事業の増加など

営業利益の増

- ・ 売上高の増

モルレル事業の増収などにより黒字に転換

7

2. 第3四半期累計実績(前年同期比較) – 主な増減要因

ホテル事業の売上高は、
当期は販売客室数の制限を緩和したことや、
東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業などにより、
204億円増の547億円となりました。
営業利益は、各費用が増加したものの、
売上高の増により、90億円増の133億円となりました。

その他の事業の売上高は、
乗降客数の増加に伴うモルレル事業の増収などにより、
売上高は22億円増の91億円、
営業利益は、11億円増の、1億円となりました。

2. 第3四半期累計実績(10月発表予想比較) – 主な増減要因

	10月予想比較	主な増減要因
売上高	上回った	<ul style="list-style-type: none"> ・入園者数：上回った <ul style="list-style-type: none"> – スペシャルイベント、「ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～」による増 – レジャー需要の回復による増 ・ゲスト1人当たり売上高：ほぼ同様 ・アトラクション・ショー収入：若干上回った <ul style="list-style-type: none"> – 変動価格制による高価格帯チケット構成比の増 – 株主用パスポートの構成比の減 – ディズニー・プレミアアクセスの増 ・商品販売収入：ほぼ同様 ・飲食販売収入：ほぼ同様
営業利益	上回った	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高の増 ・商品・飲食原価率の減 ・諸経費の減

入園者数の増加などにより
売上高と営業利益が10月発表予想を上回った

2. 第3四半期累計実績(業績予想比較) – 主な増減要因

10月発表予想と比較すると、
売上高は、入園者数の増加などにより、上回りました。
営業利益は、売上高の増加や、商品・飲食原価率や諸経費の減少などにより上回りました。

入園者数は各種スペシャルイベントや、東京ディズニーシーの新規ナイトタイムエンターテイメント「ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～」の好調に加え、
政府・自治体の観光需要の喚起策によるレジャー需要の回復により、上回りました。

ゲスト1人当たり売上高につきましては、
アトラクション・ショー収入は、
変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増や
株主用パスポートの利用の減に加え、
ディズニー・プレミアアクセスの好調により、若干上回りました。
商品販売収入と飲食販売収入は10月発表予想とほぼ同様となりました。

営業利益は、売上高の増に加え、
原材料の高騰の影響が想定よりも顕在化しなかったことによる商品・飲食原価率の減や、
諸経費の第4四半期への時期ずれによる減などにより、
上回りました。

II. 通期業績予想の上方修正

1. 通期修正予想(前期・10月発表予想比較)

(億円)

連結損益計算書	修正予想	前期実績	対前期 増減	対前期 増減率	10月予想	対10月予想 増減	対10月予想 増減率
売上高	4,646	2,757	1,889	68.5%	4,421	225	5.1%
テーマパーク事業	3,788	2,185	1,602	73.3%	3,587	200	5.6%
ホテル事業	729	474	255	53.8%	710	18	2.7%
その他の事業	128	97	31	32.5%	123	5	4.6%
営業利益	973	77	896	-	800	172	21.5%
テーマパーク事業	802	25	777	-	635	167	26.4%
ホテル事業	167	62	105	170.0%	165	2	1.3%
その他の事業	△ 0	△ 13	12	-	△ 2	1	-
経常利益	981	112	868	769.9%	806	174	21.7%
税金等調整前当期純利益	981	116	864	738.6%	806	174	21.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	681	80	600	744.4%	559	122	21.8%
	修正予想	前期実績	対前期 増減	対前期 増減率	10月予想	対10月予想 増減	対10月予想 増減率
入園者数 (万人)	2,100	1,205	895	74.2%	2,000	100	5.0%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	15,759	14,834	925	6.2%	15,551	208	1.3%
アトラクション・ショー収入*	7,777	7,049	728	10.3%	7,628	149	2.0%
商品販売収入	4,910	4,548	362	8.0%	4,855	55	1.1%
飲食販売収入	3,071	3,237	△ 166	△ 5.1%	3,068	3	0.1%

* 2022年3月期の実績はチケット収入、2023年3月期の10月発表予想および修正予想はアトラクション・ショー収入です。詳細はAppendix P18をご参照ください。

第3四半期累計実績が10月発表予想を上回り、
第4四半期も好調を見込むことから通期業績予想を上方修正

10


1. 通期修正予算 (前期・10月発表予想比較)

第3四半期累計実績が10月発表予想を上回り、
第4四半期会計期間も入園者数とゲスト1人当たり売上高が好調に推移し、
売上高が増加する見通しであることなどから、
通期業績予想を上方修正することとしました。

上方修正した通期業績予想は、ご覧の通りです。

セグメント別の実績と増減要因について、10月発表予想との比較でご説明します。

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業① 	10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高 (億円)	3,587	3,788	200	5.6%
入園者数 (万人)	2,000	2,100	100	5.0%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	15,551	15,759	208	1.3%
アトラクション・ショー収入	7,628	7,777	149	2.0%
商品販売収入	4,855	4,910	55	1.1%
飲食販売収入	3,068	3,071	3	0.1%

売上高の増

- ・入園者数の増加による増

入園者数の増

- － スペシャルイベント、「ピリヴ！～シー・オブ・ドリームス～」による増
- － レジャー需要の回復による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入の増
 - － 株主用パスポートの構成比の減
 - － 変動価格制による高価格帯チケット構成比の増
 - － ディズニー・プレミアアクセスの増
- ・ 商品販売収入の増
 - － レギュラー商品の増
 - － ダッフィー & フレンズ関連商品の増
- ・ 飲食販売収入はほぼ同様

入園者数とゲスト1人当たり売上高の増加などにより10月発表予算を上回る見込み

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、入園者数とゲスト1人当たり売上高の増加などにより200億円増の3,788億円を見込んでいます。

入園者数につきまして、第3四半期の増加に加え、第4四半期においても、各種スペシャルイベントなどの好調に加え、政府・自治体による観光需要の喚起策によるレジャー需要の回復が期待できるため、100万人増の2,100万人を見込んでいます。

ゲスト1人当たり売上高につきましては、アトラクション・ショー収入は、株主用パスポートの利用の減や変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増に加え、ディズニー・プレミアアクセスの増により上回る見込みです。商品販売収入は、レギュラー商品やリーナ・ベル関連商品の好調により、若干上回る見込みです。飲食販売収入は、ほぼ同様の見込みです。

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

(億円)				
テーマパーク事業②	10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高	3,587	3,788	200	5.6%
営業利益	635	802	167	26.4%

営業利益の増		(億円)	
売上高の増		減価償却費の減	5
商品・飲食原価率の減	約40	※諸経費はほぼ同様	
人件費の増	約△ 30		
一時金支給見込みによる増	約△ 25		
準社員人件費の増など	約△ 5		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

売上高の増加により営業利益が増加する見込み

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、売上高の増加などにより、167億円増加し、802億円となる見込みです。

商品・飲食原価率は、商品・飲食ともに為替と原材料の高騰の影響が想定よりも顕在化しないことから、下回る見込みです。

人件費は、一時金の支給を見込み第4四半期に計上することや、労働時間の増加による準社員人件費の増などにより、上回る見込みです。

減価償却費は、新規取得資産における償却期間の長い資産の構成比が増加したことにより、減少する見込みです。

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

		(億円)			
ホテル事業		10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高		710	729	18	2.7%
ディズニーホテル		653	663	9	1.5%
その他ホテル		57	66	9	16.0%
営業利益		165	167	2	1.3%

売上高の増

- ・ レジャー需要の回復による宿泊収入の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増 (約△ 5億円) – 一時金支給見込みによる増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

レジャー需要の回復による売上高の増により増収増益

		(億円)			
その他の事業		10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高		123	128	5	4.6%
営業利益		△ 2	△ 0	1	-

売上高の増

- ・ 乗降客数の増によるモノレール事業の増加など

営業損失の減

- ・ 売上高の増

モノレール事業の増収により営業損失が改善

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

ホテル事業の売上高は、第3四半期の増加に加え、第4四半期もレジャー需要の回復による宿泊収入の増を見込み、18億円増の729億円となる見込みです。営業利益は、売上高の増加により、2億円増の167億円となる見込みです。

その他の事業の売上高は、乗降客数の増加に伴うモノレール事業の増収により、5億円増の128億円となる見込みです。営業損失は、売上高の増加により、1億円減の0億円となる見込みです。

Ⅲ. 株式給付信託の導入と 従業員の賃金改定について

株式給付信託の導入（2月20日より）

目的

- 当社グループ全体の企業価値の持続的な向上を主導するインセンティブを与える。
- 株主の皆さまとの一層の価値共有を進める。

対象

当社の管理職、グループ会社の役員および管理職

従業員の賃金改定（4月1日より）

目的

従業員の働く上での安心を確保し、一人ひとりがより一層活躍できる環境を整備する。

対象

準社員（パート・アルバイト）を含む従業員

基準賃金および時給の引き上げを実施
これにより、従業員平均で約7%*賃金が増加

*株式会社オリエンタルランドの平均です。

引き続き、従業員・役職員一丸となって企業価値の向上に取り組む

III. 株式給付信託の導入と従業員の賃金改定について

当社グループはESGマテリアリティの一つとして「従業員の幸福」を選定していることに加え、「2024中期経営計画」の人事戦略において、働きがいを高められる環境整備を掲げています。従業員がこれまで以上に安心して、そして意欲的に業務に取り組むことで、企業価値の向上に寄与することを期待して、このたび従業員の待遇改善を決定しました。

当社の管理職と、グループ会社の役員および管理職については、株式を給付するインセンティブプランを導入します。企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与するとともに、株主の皆さまとの一層の価値共有を進めることで、これまで以上に意欲的に業務に取り組むことを期待しています。

また、従業員の働く上での安心を確保し、一人ひとりがより一層活躍できるようにするため、人的資本への投資として、ご覧の通り、賃金改定を行います。

当社グループは、すべての従業員が働きがいを感じられること、そして、これからも働きたい場所として選ばれ続けることを目指しており、今後も引き続き、従業員・役職員一丸となって企業価値の向上に取り組んでまいります。

Appendix



オペレーションの状況

2023年3月期 第3四半期

		10月	11月	12月
「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」における身体的距離の確保についての記載内容		キャパシティの100%以下、前後左右ともに人と人が触れ合わない程度の間隔		
運営時間 (東京ディズニーランド・東京ディズニーシー)		9～21時		
チケット価格 (大人1枚)		～10/10	10/11～	
		1デー ¥7,900/ ¥8,400/ ¥8,900/ ¥9,400	1デー	¥7,900/¥8,400/¥8,900/¥9,400
		10時30分～ ¥7,400/ ¥7,900/ ¥8,400/ ¥8,900		

【参考】2022年3月期 第3四半期

		10月	11月	12月
「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」における身体的距離の確保についての記載内容		キャパシティの100%以下、ソーシャルディスタンス1m以上		
運営時間	東京ディズニーランド	～10/31	11/1～11/30	12/1～
	東京ディズニーシー	10～19時	9～20時 11/1～11/30 9～21時	9～21時
チケット価格 (大人1枚)		～10/31	11/1～	
		1デー ¥7,900/¥8,400/ ¥8,900/¥9,400	1デー 10時30分～	¥7,900/¥8,400/¥8,900/¥9,400 ¥7,400/¥7,900/¥8,400/¥8,900

従来の開示 (2022年3月期まで)

売上高 (億円)
入園者数 (万人)
ゲスト1人当たり売上高 (円)
チケット収入
商品販売収入
飲食販売収入



対象
<ul style="list-style-type: none"> ●パークチケット ●アーリーエントリーチケット

今後の開示 (2023年3月期から)

売上高 (億円)
入園者数 (万人)
ゲスト1人当たり売上高 (円)
アトラクション・ショー収入
商品販売収入
飲食販売収入



対象
<ul style="list-style-type: none"> ●パークチケット ●アーリーエントリーチケット ●体験の収益化 (東京ディズニーリゾート・パッケージングの有償コンテンツ、ディズニー・プレミアアクセスを含む)

ゲストの選択肢を増やすことで体験価値の向上を目指すにあたり、開示内容を変更



2023年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	4/1~6/30 ▶ 4/1~ ☆「ジャンボリミッキー！レッツ・ダンス！」	★「ディズニー・イースター」				9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」
	4/1~8/31 NEW	☆「バズ・ライトイヤーのアストロブラスター“アストロ・ヒーロータイム！”		7/1~8/31 NEW	9/15 NEW ◆「ミッキーのフルハーマッシュ」リニューアル	
東京ディズニーシー	2021/9/4~2022/9/3		「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」			9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」
	4/1~9/3 NEW	☆「東京ディズニーシー20周年“シャイニング・ウィズ・ユー”」				
	▶ 4/1~ NEW	☆「ジャンボリミッキー！レッツ・ダンス！」				
	4/7~6/15 NEW	☆「タフフィー＆フレンズのビューティフル・レイニーデイズ」				
			6/19~9/7 NEW	☆「タフフィー＆フレンズのデスティ・サマー・サプライズ」		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」	11/8~12/25 ★「ディズニー・クリスマス」		1/1~1/16 ★お正月のスペシャルイベント	1/18~3/31 NEW	★「ミニー・ベスティーズ・バッシュ！」
東京ディズニーシー	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」	11/8~12/25 ★「ディズニー・クリスマス」	11/7~2023/1/24 NEW	1/1~1/16 ★お正月のスペシャルイベント	1/18~3/31 NEW	★「ミニー・ベスティーズ・バッシュ！」
			11/11~ NEW	◆「ピリーヴ！〜シー・オブ・ドリームス〜」		1/25~4/9 NEW ☆「タフフィー＆フレンズのサークル・オブ・フレンズ」

★：スペシャルイベント ☆：プログラム ◆：新規アトラクション・ショーなど
 ※イベントの名称、開催期間および内容は変更になる場合があります。
 ※2023年1月30日時点で公表しているものを記載しています。



2022年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー(参考)


	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	▶ 4/1 NEW 「ファンタジーランド・フォレストシアター」オープン			▶ 7/2 NEW 「クラブマウスビート」スタート		9/15 東京ディズニーリゾートのハロウィーン
	4/5~6/30 NEW 「ハッピーフェア・ウィズ・ベイマックス」					
東京ディズニーシー	▶ 4/19 「ドリーミング・アップ！」再開		6/1~9/2	「ダッフィー & フレンズのサニーファン」		9/15 東京ディズニーリゾートのハロウィーン
	▶ 4/1 「ビッグバンドビート」再開					2021/9/4~2022/9/3 NEW 「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	9/15~10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン			1/1~1/16 東京ディズニーリゾートのお正月		
		▶ 11/1 「東京ディズニーランド・エレクトリカルバラード・ドリームライツ」再開	▶ 12/1 「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」再開			
東京ディズニーシー	9/15~10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン	11/9~12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス			1/18~3/30 NEW 「トータリー・ミニーマウス」	
			▶ 12/1 「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」再開			
		11/9~12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス			1/18~3/30 NEW 「トータリー・ミニーマウス」	
	2021/9/4~2022/9/3 NEW		「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」			



2024年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー(参考)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
				7/4~9/6	☆夏のプログラム	
	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」					
東京ディズニーシー	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
				7/4~9/6	☆夏のプログラム	
	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」	11/8~12/25 ★「ディズニー・クリスマス」				
	1/1~1/8 ★お正月のスペシャルイベント					
東京ディズニーシー	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」	11/8~12/25 ★「ディズニー・クリスマス」				
	1/1~1/8 ★お正月のスペシャルイベント					

★：スペシャルイベント ☆：プログラム ◆：新規アトラクション・ショーなど
 ※イベントの名称、開催期間および内容は変更になる場合があります。
 ※2023年1月30日時点で公表しているものを記載しています。

テーマパーク事業① 	前期実績	修正予想	増減	増減率
売上高 (億円)	2,185	3,788 ^{*1}	1,602	73.3%
入園者数 (万人)	1,205	2,100	895	74.2%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	14,834	15,759	925	6.2%
アトラクション・ショー収入 ^{*2}	7,049	7,777	728	10.3%
商品販売収入	4,548	4,910	362	8.0%
飲食販売収入	3,237	3,071	△ 166	△ 5.1%

^{*1} 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。
^{*2} 2022年3月期の実績はチケット収入、2023年3月期の修正予想はアトラクション・ショー収入です。詳細はAppendix P18をご参照ください。

入園者数の増


- ・ 入園者数の制限緩和による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入の増
 - － ディズニー・プレミアアクセスの増
 - － 株主用パスポートの構成比の減
 - － 変動価格制の高価格帯チケットの構成比の増
- ・ 商品販売収入の増
 - － グッフィー & フレンズ関連商品の増
 - － 食品の増
- ・ 飲食販売収入の減
 - － 入園者数増加によるテーブルサービス店舗の利用構成比の減
 - － 入園時間指定券の構成比の増による喫食機会の減
 - － 前期、フードスーベニア好調による減

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により売上高が増加

(億円)

テーマパーク事業② 	前期実績	修正予想	増減	増減率
売上高	2,185	3,788 ^{*1}	1,602	73.3%
営業利益	25	802	777	-

^{*1} 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

営業利益の増

売上高の増	
商品・飲食原価率の減	約10
人件費の増	約△ 160
前期と当期の雇用調整助成金 ^{*2} の 受給差額	△ 71
一時金支給見込みによる増	約△ 25
準社員人件費の増	約△ 40
正社員人件費の増	約△ 15
その他	約△ 10

(億円)

諸経費の増	約△ 140
販売促進費の増	約△ 30
メンテナンス費の増	約△ 25
エネルギー費の増	約△ 25
システム関連費用の増	約△ 15
エンターテインメント関連費用の増	約△ 15
その他	約△ 30
減価償却費の増	△ 15
前期の営業外費用への振替など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

^{*2} 雇用調整助成金の受給金額を営業費用から控除しています。

コストは増加するものの、売上高の増加などにより、増益

通期修正予想(前期比較)

(億円)

ホテル事業

	前期実績	修正予想	増減	増減率
売上高	474	729	255	53.8%
ディズニーホテル	437	663	226	51.7%
その他ホテル	37	66	29	78.9%
営業利益	62	167	105	170.0%

売上高の増

- ・ レジャー需要の回復による宿泊収入の増
- ・ 当期、販売客室数の制限を緩和したことによる宿泊収入の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増 (約△ 25億円) ← 準社員人件費の増、賞与計上差額、一時金支給見込みによる増
- ・ 諸経費の増
- ・ 減価償却費の増 (△ 12億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

レジャー需要の回復による売上高の増により増収増益

その他の事業

(億円)

	前期実績	修正予想	増減	増減率
売上高	97	128	31	32.5%
営業利益	△ 13	△ 0	12	-

売上高の増

- ・ 乗降客数の増によるモノレール事業の増

営業損失の減

- ・ 売上高の増

モノレール事業の増収により営業損失が改善



投資額・償却費 通期修正予想(前年同期比較)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	前期実績	修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	608	847	238	
東京ディズニーランド	30	160	129	スペース・マウンテン、ディズニー・ハーモニー・イン・カラー、ミッキーのフィルハーマジックのリニューアルの増
東京ディズニーシー	411	516	104	東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクトの増
その他	166	170	4	
ホテル事業	377	164	△ 213	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテル、東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクトの減
その他の事業	19	36	17	モノレール事業、劇場事業の増
(消去又は全社)	△ 3	△ 0	2	
合計	1,002	1,048	45	

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	前期実績	修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	365	380	15	
東京ディズニーランド	155	163	7	
東京ディズニーシー	125	124	△ 1	
その他	83	92	8	
ホテル事業	36	48	12	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの増
その他の事業	32	33	0	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	432	462	29	

※償却費には営業外費用の振替額は含んでいません。



投資額・償却費 通期修正予想(10月発表予想比較)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	10月予想	修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	956	847	△ 108	
東京ディズニーランド	190	160	△ 30	スペース・マウンテンの支払いの時期ずれによる減
東京ディズニーシー	577	516	△ 60	東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクトの支払いの時期ずれによる減
その他	188	170	△ 17	システム投資の支払いの時期ずれによる減
ホテル事業	191	164	△ 27	東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクトの支払いの時期ずれによる減
その他の事業	38	36	△ 1	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	1,185	1,048	△ 137	

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	10月予想	修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	386	380	△ 5	
東京ディズニーランド	163	163	△ 0	
東京ディズニーシー	130	124	△ 6	
その他	91	92	0	
ホテル事業	48	48	0	
その他の事業	33	33	0	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	△ 0	
合計	467	462	△ 5	



株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

047-305-2034 www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見直しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。